

聖書箇所： マタイによる福音書 25 章 14 節～30 節

- 14：天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。
- 15：彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには5タラント、ひとりには2タラント、もうひとりには1タラントを渡し、それから旅に出かけた。(16) 5タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに5タラントもうけた。(17) 同様に、2タラント預かった者も、さらに2タラントもうけた。
- 18：ところが、1タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。
- 19：さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。
- 20：すると、5タラント預かった者が来て、もう5タラント差し出して言った。「ご主人さま。私に5タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。わたしはさらに5タラントもうけました。」
- 21：その主人は彼に言った。「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたはわずかな物に忠実だったから、わたしはあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」
- 22：2タラントの者も来て言った。「ご主人さま。私は2タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに2タラントもうけました。」(23) その主人は彼に言った。「よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたはわずかな物に忠実だったから、わたしはあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」
- 24：ところが、1タラント預かっていた者も来て、言った。「ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。(25) わたしはこわくなり、出て行って、あなたの1タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。」
- 26：ところが、主人は彼に答えて言った。「悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。(27) だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息がついて返してもらえたのだ。(27～30節は省略)

メッセージ骨子：

<序論> 我々は「試合」が目の前に迫ると、それに勝つために必死になるが、あとから振り返ると「あれもたかが試合だった」と気づくものです。それを通して自分の弱さを知り、その時点でもう一度自分らしい人生を描きなおす。ここに人間的な成長があり、そこに導くのが「体育」の本来の役目で、それは「人生達観」を目指した学問なのだとある人から教わりました。ところで聖書も、人生の全体像を示しており、なかでも「タラントのたとえ」は、我々に人生を俯瞰させてくれるお話の一つです。

<ポイント1> 「人生には清算がある」

私たちは皆、大変価値のあるものを預けられています(1タラントは給料20年分)が、神はそれを「わずかなもの」と呼びました。それは限られた時間預かるだけで、永遠の所有物ではないからです。そして最後に、一人ひとりがそれにどう向き合い、どう使い、何を最終的に残したかが問われます。

<ポイント2> 「不平等のようで平等」

預けられた「価値あるもの」は、人によって中身も量もちがいます。でもそれを大切に扱い、神のために使った者に与えられる賞賛のことばは、額によらず全く同じでした(21節と23節)。だから多くを預けられた人をうらやむ必要は無く、各人に与えられた賜物(才能、チャンス、人間関係、健康、時間などの全て)を喜び、それを神のために使うことのみを考えればいいのです。1タラントのしもべの失敗は「愛の神」をしらなかつたこと。そして自分と他人の賜物をくらべてひがみ根性を持ってしまったことでした。実は私達も、それと同じ状況に陥る可能性がある所以要注意です。

<ポイント3> 「ねぎらいと昇格と祝宴が待つ」

「よくやったね(ねぎらい)。あなたにはこれからもっとたくさんの物を任せよう(昇格)。この喜びを一緒に喜んでくれ。(祝宴)」この21節の言葉は、現実の社会を思わせます。ここで言う「たくさんのもの」とは、ゲームオーバーのあと、天に用意されている永遠の相続財産。神は全く別次元の楽しみを準備して待って下さっていますが、主人はこれを「たくさんのもの」と呼びました。

<まとめ> キリストの復活は決定的な大勝利。これによって、もはや後戻りはありません。歴史は進みました。例えて言えば、これはノルマンジー上陸作戦に成功した連合軍ではないでしょうか。戦いはまだ続くが、ベルリン陥落ならぬ、クリスチャンの「最後の勝利」はすでに時間の問題という状況です。あなたも天の御国を目指すこの勝利の隊列に加わりませんか。命を賭けて人生の戦いをここまで進めて来られたあなただからこそ、俯瞰できる人生の景色があるのではないのでしょうか。

「今は恵みのとき、今は救いの日です」(第2コリント6：2)

以上